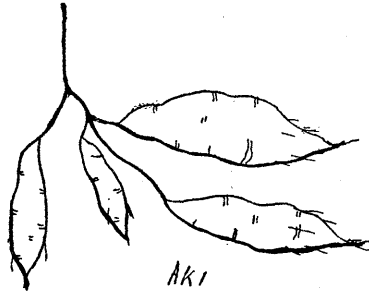


自然保育の

実験報告



東京
目白幼稚園

序

人間の各時期の好ましい発達には、前段

又遊びのグループの人員も、年少な者程少なうございます。グループの編成は毎日干差万別で、子供はその時のメンバーによ

階の十分な成熟が条件です。幼児の生活は「遊び」であり、幼児期にたっぷり遊んだ子供は学校に入ってから、又好

ましい知的発達を遂げると思っています。自然保育は幼児の自然の行動、傾向を活用して幼児教育法としたもので、幼児の自主的な性格形成を促進致します。次にその実験報告を申し上げます。

(一) クラスの解体

幼児の要求は少しでも多く色々な年齢や性質とふれあい、見聞を広くする事にあると考えまして、クラスを解体しました。此の結果智能の遅れた者は小さい子と遊び、クラス分けがない為これをおかしく思う子供がありません。

て、自分の役割を多種多様に学んでおりま

(二) クラス解体後のカリキュラムに就いて

幼児の学習は子供の自然学習に任せるべきだと思います。そして一年を通じた園全体の保育計画を立てて、カリキュラムは環境に折り込まれ、幼児の自然学習の機会を捕えて保育が誘導し発展を助ける様にしております。従って幼児教育は個人保育でなければならぬと考え、クラスの解体も年齢以上の個人差を認めた結果によるものがございます。

(三) 遊び場の仕度

自然学習には環境の整備が条件でございますので、クラスの解体と共に屋内に凶の如く九つの遊び場をこしらえまして、何時でも子供が自分から遊べる様にして置きました。各部屋の毎日の工夫の中に私共のカリキュラムも半ば表現されて、いつでも子供を誘っているのです。

(四) 自主的な自然学習の第一歩

此の環境にあって、子供達は創作以前の
実験の時期とでも申しましょうか、折紙を
ただ切りこまざくとか、絵具の滲みあいを
楽しむとか、ホールを一寸走ってはころが
り、又一寸走っては転がって、十五分以上
も遊ぶ等各自の個性にに応じて、たつぷりと
その子の段階をほぐれた心で遊んでくれま
した。又始めて友達になる時も、二人さりの
鬼ごっこみたいな事をしながら自分で友
達を作って参ります。観察の机を囲んで七、
八人の子供が、エビガニをみています。エ
ビガニって蝦にそっくりだねえ……尾っぱ
も同じだ、長いひげだって、めだつてさあ
……」「足はどうかな？」と皆でガラスの
器の下の方からのぞいて居ます。「何故エ
ビガニって云うのかな？」「エビ・ガニ：
……じゃあないか……缺もあるし……」「そ
うだね」「これ食べられるよ」「食べられ
ないよう」「でも蝦と同じだものねえ」「先
生！これ食べられないよねー？」「さあ
……食べられるかも知れないけど……余り
おいしくないでしょうよ」「どうして？
どうして海の水ならおいしくてたんぼじゃ
あおいしくないの？」「きつと泥くさくて

おいしくないでしょうよ……先生も食べた
事ないけど……」と答えておきました。所
がエビガニが戦時中千葉県で或人が、てん
ぶらにして食べたら、大変美味しかったそ
うですが、その後わけのわからない病気に
なり病院で調べた所、エビガニによるらし
い肝臓デストマであったという話を人から
ききました。此の様に子供の自然学習は、
仲間の友達との合作の形でだんだんに友情
と共に培われるのが特徴の様に思います。

(五) 誘導保育の実際

「遊ぶ子に手をつけるな、眼を放すな」と
の諺は自然保育の要諦でございます。子
供を伸び伸びと育てる上にはあまり世話を
やいたり干渉したりしない方がよいと思ひ
ます。しかも勝れた子供になって貰うには
二つの手段があります。一つは子供が自分
で利用出来る設備及び自然学習に適した環
境であり、一つは絶間ない保母の誘導であ
ります。知らず知らずの中に子供が糸をひ
っぼられている事を意にしないで自分から
園内に入ってくる……此の誘導保育は徹底
した自然保育の場合に最も効果的であり易

いのでございます。そして、どこの幼稚園
でもなさっている此の誘導の方法が子供の
自主的性の形成に寄与して居る点を、私
共はしっかりと自覚してこれらを行う必要が
あると存じます。知的学習の誘導の例を次
に申し上げます。寒い冬の朝、観察の机の
見事な霜柱を前にして「これ氷だよ」「氷
じゃないもん、霜柱だもん……土の所にあ
るんだぞ君」と熱心なやりとりがあり解決
がつかず、みていた保母は「じゃあお庭に
探しに行きましょう」と持ちかけました。

子供達は霜柱のあるところをぐるぐる探し
まわって、花壇にもあった、垣根にもあっ
た、そして最後は園長先生のお庭の昨日掘
ったばかりの穴の中途のが一番見事とし
た。「柔かいところはよく出来るね」「そ
うだ、あんまり人の踏まない所にあるね」
「柔かい所ならあるよ」「じゃあ砂場にあ
るぞ」とみんな飛んで行きました。「あれ？
ないや」「ないねー」そのうち探していた
一人が「水がないからだ」と云いました。
それから霜柱とりが盛になって観察の机に
沢山の霜柱が並ぶと保母は、「みんなこれ
で何がしたいですか？ 何でも好きな事し

て「ごらんさい」といいました。「僕虫めがねでみたいなー」と虫めがねで見た子は「やーガラスのお城みたいだ」と云いました。女の子が「私水の中に入れてみよう」と洗面器の水に霜柱を入れるとみんな眼を丸くして「浮くねえ」とみえています。霜柱を手のひらにのせて虫めがねでみていた子は、「やあだんだん小さくなって来た」といつまでもみていました。以上の事はどの幼稚園にもある事でございますが、私共は此の様な自発活動による経験を誘導することを本領としているわけでございます。

(六)遊びの片よりについて

皆様もお気づきのように此のように保育していますとかたよって遊ぶ子供も出て参ります。それで各遊び場に来た子を簡単に記す表をこしらえて、これを参考にしながら好きな遊びや友達をきっかけとして誘導して居ります。

(七)集団指導について

自然保育にあつては、同じ興味活動をする者同志が一つの場面を作っている場合に

これを集団と名づけ、保育の指図した一つの部屋又は一つの机にいるものを集団とはみなさないでございます。従つて子供は自分の目的を得る為に必要なに迫られつつ集団を学んでおりまん。砂場でバケツを取りつこしていた子供も、製作の机に来て仕事に熱中して来ると、又違った雰囲気となり、向うの子供が、「一寸はさみ」と云うと思わず急いで渡しております。今度はこちらの子が、「はさみ」と云らと相手は物も云わずに渡して、又余念もなく集注しております。一人の子が大きい声で、「手をふくもの」と云いましたので、「御自分で取つていらっしやい」と保育の口から出そうになりましたが、隣にいた女の子が早速にとつてわたしました。こうなると同じ興味活動をするもの同志の察しと申しますか、そう云うものが此の集団を支えて保育はこれを観察し、学ばばよいという事になります。好きもの同志の寄つた遊戯の集団にも自然にお邪魔はいけなとか、代りばんこに皆の好きなものをとか、エチケットが生れるのは当然でこれを守れない子供は仲間からはずされ、又自分もついて行けなくな

ります。自然保育は幼児の興味活動が主体であるからさぞ勝手が出来るであらうと思われませんが、実際の子供の生活は決してたやすくはありません。今日は積木遊びが広くなつてホールにはみ出ししている等という時は、遊戯の丸もそだけかけて曲る等、お互いを尊重しあつて暮しております。御辨当は遊び場を片づけて食事致しますが、どの遊び場で誰と並ぼうかと、席を選ぶには相当頭を使つております。又週三回は、お話、人形劇、テレビ等全員一緒に楽しめますが、共通目的のえの興味が子供に集団のエチケットを学ばせる事は前に述べた通りでございます。自然保育の難しい点は何と云つてもあちらの遊び場、こちらの遊び場と散らばつて居る子供達の心をどうやつて手の中に収めるか、と云う事でございますが、結局一人一人の子供と誠実につき合つてこれを積み重ねれば大分効果があります。

(八)自然保育の結果

此のような自由な保育を受けますと自分の行動について絶えず自分の判断が必要で

すので意志方ある人間を作ります。一二の例をあげますと、ある子供は留守番をしている時、おじさんが吐血して急に亡くなりました。一緒に遊んでいた子供達の中には小学生もいたのですが、皆が逃げて行ったあとでその子供は、血だらけになって一生懸命背中をなでていました。近所の人が話をきいてかけつけてこれを見て、大変に驚きましたが、此の様な事は当人は平常通り目的を持って行動したに過ぎないのでございます。又この自然保育を二年間受けて今年卒業した或女の子は、夫々別の幼稚園を出た兄と姉とがありますが、姉の方は兄からいじめられた場合に始めて、母親に訴えますが、此の保育を受けた妹の方は自分の時は比較的自分で拒絶又は別な方法で処理しまして、何かの折に、「お兄ちゃん人は嫌がってもする時があるよ」等と淡々と話しますので「何だ、妹のくせに」と云えないものがあります。又自分の姉に対しても、「お姉ちゃんは、何時も急いでるか」と自分のものさしで姉とつき合い、自分の生活を打ち建てると自主的な面が上の二人にくらべて、はっきり現われておりま

す。此の様に周囲の友達や人間全般に渡って観察力が培われる点は他にも沢山例がありまして、これが此の保育の一つの特徴でもあると思います。又学校へ行っているから、二年三年と上に行く程いろいろな方面で効果があがっております。園のそばの小学校へは、年々卒業生の九割までが通っておりますが、小学校は三年になれば始めて学級委員が選ばれるのですが、今年の三年の学級委員も、七組まである各クラス毎に大分多くえらばれておりまして、何となく明るい気持が致しております。

又私共は興味活動の促進と云う点で誠にお恥しい実力でございまして、なかなか思う様な成果もあげられずしておりますが、自然保育のシステムそのものが創造活動の方法として勝れている事は、多分皆様もよく御了解いただけると思うのでございます。

最後に自然保育の人数でございますが、やはり職員が幾人いまいしょうとも一人一人の職員が全部子供を受けもっている事になりますので、理想を云えばせいぜい六、七名が限度であらうと思えます。

私共としては此の発表に当って、実験的

なデータをおめにかげられたらと思いましたが、抽象的にしかお話出来ないのが残念です。ですから果立って行った子供達をみてみますと、円満な社会人としての基礎の上に伸び伸びと成長しているのを見るにつけ、私共の保育の方法に確信をもたずにはいられません。そして私達は、この方法で邁進して行き度いと思っております。

第五回全国幼稚園施設

研究大会

会期 十一月九日(金)十日(土)

会場 名古屋市公会堂

講演・研究発表・分科会の
研究主題と小問題・その他

参加費 五〇〇円

申込先

名古屋市第三幼稚園内

第五回全国幼稚園施設

研究大会事務局

(名古屋市西区志摩町一電話笹島分局55)〇二八〇